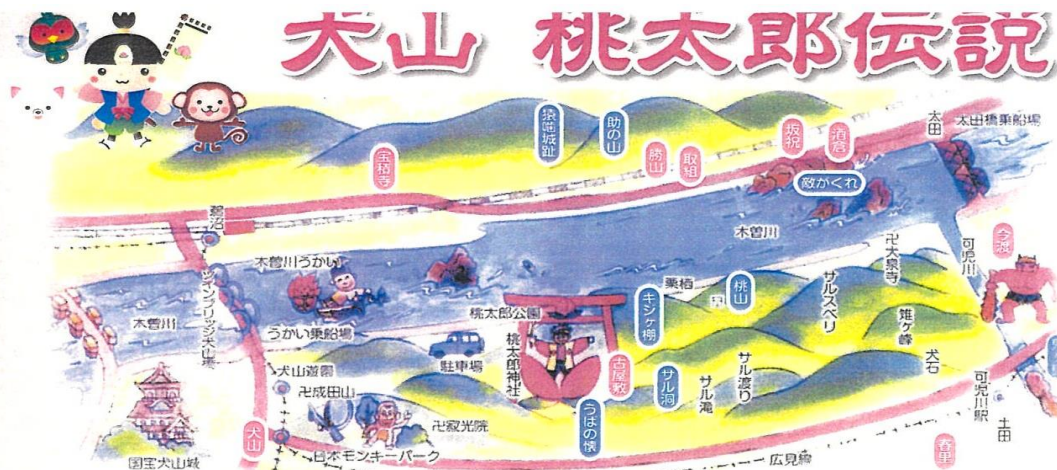


犬山 桃太郎伝説



犬山の栗栖には、古事記に記されている※意富加牟豆美命（オオカムツミノミコト）を基としたお伽噺の桃太郎伝説が今も地名等として残っています。

現在神社のある所は、昔、桃太郎を育てたお爺さん、お婆さんの屋敷のあった場所で古屋敷という所です。

山には猿洞、雉が棚という所もあり、鬼ヶ島は木曽川の上流（支流）可児川の中にあります。この島に昔、悪い鬼が住んでいて付近の村々を荒らしていたのです。

ある時、木曽川に流れて来た桃を洗濯をしていたお婆さんが拾い、桃太郎が生まれました。大きく育った桃太郎が、鬼に村人が悩まされて困っている事を聞き、「よし、俺がその鬼を退治してやる」と言って、犬山の犬 猿洞の猿 雉が棚の雉をお供に鬼ヶ島へ出発しました。途中、鬼と取組んで戦い、最初の戦で勝った所が勝山、鬼と取組んだところが取組です。

鬼ヶ島へ攻め込む際、見張りの鬼が桃太郎を見つけ、

今、川を渡ったと言った所が今渡と呼ばれています。

戦いの末、鬼は改心し、盗んだ宝物を差し出しました。悪い鬼がいなくなり里に春が来たようだというので、春里という地名も残っております。

宝車を引き帰る途中の村で、村人が倉から酒を出してお祝いをしました。酒の倉があった所を酒倉、祝った場所を坂祝と呼ぶようになりました。宝物を積んで集まった村人に鬼退治の話をしました。その地に寺が出来、今では宝積寺となっております。

村人たちは、桃太郎は神様が人間の姿に生まれかわってきて、鬼に苦しめられている我々を助けてくれたと言って、桃太郎が姿を隠したその山を御神体として拜むようになりました。そのうち山の形がだんだん桃のように見え、桃山と呼ぶようになりました。

麓に小さいお社を作って桃太郎をお祀りし、現在の桃太郎神社となっております。

出所：犬山「桃太郎神社」

※意富加牟豆美命（オオカムツミノミコト）とは、日本神話に登場する神であり、伊邪那岐命（イザナギノミコト）を助けた桃の実に授けられた名。